

会 議 録

会議名	平成27年度第五回図書館協議会				
事務局	図書館				
開催日時	平成28年1月25日(月) 午前10時～正午				
開催場所	小金井市立図書館地階集会室				
出席者	委員	田中 幸夫 舩崎 尚	藤森 洋子 坂野 勝一	鴨下 万亀子 中里 成子	内田 美帆
	欠席者	神成 真一 石田 静子 吉田 和夫			
	事務局	上石館長、西村庶務係長、菊池奉仕係長、岡本(幸)奉仕係主任、栗栖庶務係主事			
傍聴者の可否	可	傍聴者数	1		
傍聴不可・一部不可の場合はその理由					
会議次第	<p>1 議題</p> <p>(1) 第3次小金井市子ども読書活動推進計画(案)に対する意見の検討結果について</p> <p>(2) その他</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第3次小金井市生涯学習推進計画(案)に対する意見について</p> <p>(2) その他</p> <p>3 その他</p> <p>4 図書館本館施設見学</p> <p>5 配布資料</p> <p>(1) 第3次小金井市子ども読書活動推進計画(案)に対する意見の検討結果</p> <p>(2) 平成27年度第5回小金井市図書館協議会資料</p> <p>(3) 平成27年度 三者合同会議 次第(案)</p> <p>(4) 図書館だより(第34号)</p> <p>(5) 月刊こうみんかん(No.453)</p>				

平成27年度第5回 小金井市図書館協議会

平成28年1月25日

【上石館長】 皆様、おはようございます。今年度第5回の協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。本日の欠席委員は、神成委員、石田委員、吉田委員、3人の方からご連絡をいただいております。定刻になりましたので、始めさせていただきます。

それから本日は、私ども事務局の奉仕係長菊池と、子ども読書活動推進計画を担当している岡本（幸）が出席しておりますので、よろしく願いいたします。

【菊池奉仕係長】 菊池と申します。よろしく願いいたします。

【岡本（幸）主任】 岡本と申します。よろしく願いいたします。

【上石館長】 では会長、よろしく願いいたします。

【田中会長】 それでは第5回的小金井市図書館協議会を開催させていただきます。最初に資料の確認をしたいと思いますので、お願いいたします。

【西村庶務係長】 お手元に資料を配付させていただいております（資料確認）。

なお、前回お配りさせていただいた資料を今日お持ちいただくということでご案内させていただいていますが、大丈夫でしょうか。説明資料については以上です。

【田中会長】 資料で何か足りないもの等ありますでしょうか。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。議題1（1）第3次小金井市子ども読書活動推進計画（案）に対する意見の検討結果についてということで、事務局からお願いいたします。

【上石館長】 第3次小金井市読書活動推進計画（案）に対する意見の検討結果について、担当から説明します。

【岡本（幸）主任】 子ども読書活動推進計画を担当しております岡本と申します。本日は、平成27年11月20日から12月20日にかけて行った第3次小金井市子ども読書活動推進計画（案）に対するパブリックコメントの結果について説明をさせていただきます。

お配りしております資料、左上に平成27年度第5回小金井市図書館協議会資料と記載されているものをご覧ください。今回のパブリックコメントでは3人の方から4件のご意見をいただきました。いただいた順に掲示しておりますので、順番等はばらばらとなって

おります。

1件目は計画の11ページ、Ⅱ番の小学生・中学生の5行目の部分、文章を変更してほしいというご意見でした。こちらにつきましては担当課と検討を重ねたところ、子ども読書活動推進計画の目的、計画の7ページに記載しております基本方針、また都の計画、国の計画に沿って検討を重ね、その上で今回のご意見を踏まえて検討する部分、計画の方針や都、国の計画との整合性を考慮した部分として、変更しない部分とに分けさせていただきました。

2件目のご意見は12ページ(6)、各学校図書館の整備の2行目に対するものでした。こちらも先程同様、担当課と検討を重ね、国や都の計画等を考慮した上で修正することとさせていただきます。

3件目ですが、こちらは文章の間違いに対してのご指摘でしたので、確認修正を行うこととさせていただきます。

4件目です。こちらも文章の構成に対するご意見でしたので、確認修正を行うこととしました。

説明は以上です。

【田中会長】 ただいまパブリックコメントに対する検討結果について説明がありましたけれども、ご質問等があればお願いいたします。部分部分なので少しわかりづらいと思います。お手元に子ども読書推進計画(案)がありましたら、ご用意いただけると。

【中里委員】 このパブリックコメントは我々のような、少々関係がある者からの例えばファクスとか、意見でしょうか。それとも公民館等に備えつけてあります、本当に一般の方からのものでしょうか。

【岡本(幸)主任】 今回のパブリックコメントは市民全体、在住・在勤・在学の皆様に対して意見を募集させていただきました。

【中里委員】 ファクス等で来たものでしょうか、この3人というのは。

【岡本(幸)主任】 提出方法等は個人情報に当たりますので、お答えするのは難しいです。

【中里委員】 そうですか。それもそういう範囲に。結構です。

【田中会長】 そのほか、何かございますでしょうか。

根幹にかかわるような大きな変更等はなく、軸の形成とか、そういうことに対して意見が出たという感じでしょうか。

何かご意見等ございますでしょうか。この後はこの案はどのように流れていくでしょうか。すみません。教えていただければ。

【岡本（幸）主任】 今後のスケジュールにつきましては、2月2日に庁議という市の最上位機関に、この計画を配布することについて報告する予定となっております。

その次に教育委員会が2月9日にございますので、内容も含め報告をし、了承をいただいた後、市の関係機関、公民館や図書館等で閲覧・配布ができるようになります

このパブリックコメントは3月の厚生文教委員会で議会への報告を行う予定となっております。

計画自体の本文についてはパブリックコメントが一定終了した後、文章の最終調整を行い完成形にして、改めて教育委員会等へ報告をしていく予定となっております。以上です。

【田中会長】 わかりました。ありがとうございます。何かありますでしょうか。

では、パブリックコメントをいただいて、直した文章等を出して、その後、教育委員会、厚生文教委員会、議会を通して、また戻ってきてという、少し時間がかかるかもしれませんが、そういう流れで行くということだそうです。よろしくお願ひしたいと思います。

議題（2）その他と書いてありますけれども、事務局からは何かございますか。

【上石館長】 事務局からは特にございません。

【田中会長】 では2の報告事項に参りたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（1）第3次小金井市生涯学習推進計画（案）に対する意見についてということで、事務局からお願いいたします。

【上石館長】 報告事項1、第3次小金井市生涯学習推進計画（案）に対する意見について、ご報告させていただきます。前回、生涯学習課長がこちらにみえてご説明をされました。今日は都合で欠席ですので、私から報告させていただきます。

第3次小金井市生涯学習推進計画は、12月9日から1月8日でパブリックコメントを締め切っております。こちら（資料）、皆様からもいただいておりますが、結果です。意見を合計して、いただいたのは団体が1つ、個人からはお二人ありました。団体については今言ったように、図書館協議会からご意見をいただいております。そのほかからは個人の方ということでございました。

内容としましては、主に図書館の充実について生涯学習推進計画に書き込みを厚くすべきというのが主な意見でございました。

あと、もうお一方は、生涯学習について、企業との連携ということについても一定書き

込みがあるけれども、重点プロジェクトの中ではあまり深い書き込みもされていないので、企業との連携について入れていくことが必要ではないかといったご意見がありました。

それと今後、こちらのご意見について社会教育委員の会議で議論をし、深めていくということをお願いしております。

以上、簡単ですが、生涯学習課長が前回、教育委員会でも同じ報告をしておりますので、そのことと同じ内容を私から代弁させていただきました。以上です。

【田中会長】 ありがとうございます。何かご質問はございますでしょうか。

かなり大きい推進計画なものでして、図書館の部分について、先程ありました内容についてご意見があった。

【上石館長】 本日石田委員がご欠席ですけれども、社会教育委員の会議の委員でもあります。会議は社会教育委員も3月までに1回ないし2回だと思いますけれども、その中でこちらの計画は子ども読書活動推進計画とは違って、コンサルタントが入っておりますので、3月末までには必ず作るということになっております。

私どもの子ども読書の生涯学習推進計画と合わせてということで作ってまいりましたので、そちらの生涯学習推進計画の中に図書館の書き込みがなかったというご意見を、どういうふうに社会教育委員の会議で進め、取り入れていただけるのか、また、それはこういったことで取り入れられないというか、文言的には入らないかもしれませんが、それは今後、社会教育委員の会議でやっていくということになっております。

【田中会長】 よろしいですか。

【船崎委員】 ありがとうございます。その結果といいますか、それはいつわかるというか、段取りとしては。

【上石館長】 段取りとしましては、社会教育委員の会議が2月の中旬にありますので、そこまでには、あちらは小委員会というのも設けておりますので、小委員会をやり、また本会議で進めていっておりますので、2月の中旬には、パブリックコメントに対する会議の方針みたいなものは決定すると思うんですけれども、公になるのは社会教育委員の会議だと思います。

【坂野委員】 よろしいでしょうか。

【田中会長】 どうぞ。

【坂野委員】 パブリックコメント一般についてでもあるんですけれども、今回の場合、一度提出してから社会教育委員の会議の方々が検討される上で、パブリックコメントをさ

らに詳しく聞きたいですとか、趣旨がわからないといった時に、それを聞いていただくと、我々も団体として1つ出しておりますけれども、そういう手続はあるのでしょうか、ないのでしょうか。

もしあれば、結果が出る前に私どもの団体の意見について、きちんと趣旨が伝わっているかどうか確認できるのかなと思うんですけれども、そういうのは行政手続としてあるのでしょうか。

【上石館長】 多分、きちんと意見として出されたものに対して、最終的には市の考え方、お答えを公表する、先程の子ども読書もそうですけれども、そういった形をとりますけれども、個々の対応はないと思います。

【鴨下委員】 前回の会議で私から話を出しまして、締め切りに間に合わなくて、私個人で出させていただいたんですけれども、例えばこの協議会として出した意見に対しても一般の扱いと同じで、先程図書館の回答があったように、それについてこういうふうにしますという結論が出てからの発表なんですか。

【上石館長】 はい。そういうことです。

【鴨下委員】 それが2月中旬以降ということ。

【上石館長】 そうです。

【鴨下委員】 私は、後ろのほうに第1項を設けていただきたいということで出したんですけど、その結果を待っていますのでよろしくお願いいたします。

【田中会長】 そのほか、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

報告事項、その他ということで、事務局から何かございますか。

【上石館長】 28年の第1回臨時会、市議会の報告をいたします。

皆さん既にご承知のことと思いますけど、平成27年12月18日に西岡真一郎新市長が就任されたこと、それから、市議会の補選、補欠選挙が行われたことをご存じだと思います。市議会では吹春よしたか議員と坂井えつ子議員が新しく議員になりました。

臨時議会の会期が1月22日から2月2日までとなっております。この議会の中で特段、図書館についての議案等はありませんので、報告は以上になります。

【田中会長】 議会の報告がありましたけれども、何かお聞きしたいこと等ありましたら、お願いします。

【坂野委員】 議会の報告ということでは関係しないかもしれませんが、新市長が選ばれたということで、市長の方針として広くは社会教育、あるいは教育委員会全体という

話になるかもしれませんが、何か図書館協議会の運営で話を進めていく上で参考になるものというのが示されていたら、ご紹介していただければ助かるなと思います。

【上石館長】 西岡真一郎市長が公約を選挙の時に公報に書いてございましたけれども、図書館に関係すると言えばそこだと思います。蛇の目跡地という土地がありますけれども、そこに、新市庁舎とともに図書館も入れると、そういったことを公約に掲げておりますが、それは、西岡新市長が公約に挙げているという段階で、まだ行政としてそれを、図書館をあそこに建てましょうという段階ではまだございません。

公約で掲げて当選をされたということでもありますので、今後、市の中できちんとした会議等で決めていくものだと思いますが、今までの蛇の目跡地に対しては、図書館は入らないということが決まっておりました。皆さんもご存じかもしれませんが、市民アンケート等を取りましてパブリックコメントをその当時しております。その時にも新市庁舎に図書館を、というパブリックコメントもありましたけれども、そこに対して市は図書館は入れませんというお答えをしておりました。

ただ、市長が替わりまして、そういった方針を掲げて当選されたということですので、今後、教育委員会ももちろんですけれども、市の関連部局と公共施設等を検討しているところもございます。そちらとの兼ね合いもありますので、今後何かしら動いていくということはわかっておりますが、12月18日に市長が就任されて以来、私ども部課長のヒアリングはございましたけれども、特に図書館を入れるからというようなことではまだない、公約には掲げているということです。

ヒアリング等で市長が私どもにお話ししてくださったことは、グランドデザイン、大きな枠で考える。ですので、今後のことは、今は少し立ち止まって考えていこうということは私のヒアリングの時にもお話がありました。ですので、今後ということになっていくと思います。

【田中会長】 よろしいでしょうか。

【船崎委員】 はい。ありがとうございます。そのヒアリングで何か、新しい市長から、こういう点はとか、何か発言、質問等、そういうのはなかったでしょうか。

【上石館長】 生涯学習部で1時間ありました。生涯学習課、図書館、公民館、それで1時間でした。その中で新たな図書館計画ということについては、まだ意見のやりとりまでは行っておりません。

【鴨下委員】 西岡市長は、公約に図書館のことを入れていただけたというのはとても

ありがたいことだなどと思って聞いていたんですけれども、私は前から疑問に思うのですが、各市は色々なところに分館がありますね。それが独立館として西部図書館とか、何々図書館というふうにして、独立館として運営しているんですけれども、小金井市は各分館が分室として運営しています。

それは行政的にとても大きな違いがあると思いますけれども、やはり小金井市も各分館として充実していくことが私は必要なんじゃないかと思っているんです。その辺について、ヒアリングに応じていくとか、積極的に図書館から意見を出していくとか、そういうことはいかがでしょうか。

【上石館長】 この間、貫井北分室、東分室と委託を進めてまいりまして、その間ずっと市議会からも、協議会の皆さんからも、中長期の図書館計画がないということで指摘を受けておりまして、私どももまさにそのとおりということで、計画を立てたい、立てなくてはいけないということは十分承知しております。来年度以降、そのような方向に進んでいかなくてはいけないというのは、図書館長としても十分承知しているところですが、なかなか体制がとれない。色々な言い訳になってしまいますが、職員体制等もありますので、その辺も新市長にはお話しした部分でございます。

ではどうやっていくかということにつきましては、図書館内部で数年前に、中央館の建設に対して一定の絵を描いてございます。それは図書館内部のものだけだった。それをやはり公にオーソライズすべきだったと思います。今後研究しながら、来年度になってしまいますけれども、何かしらの方策、例えば、また図書館協議会の皆様に諮問させていただくとか、そういったことがあるかもしれません。そういうふうに進めていかなくてはいけない、私の責任だということは十分わかっておりますので、またご協力をお願いすることがあるかもしれませんので、よろしく願いいたします。

【田中会長】 そのほか、何かございますでしょうか。

【坂野委員】 その他ということは、いろいろなことを議論してよろしいでしょうか。具体的に言うと、この間いただいた統計資料について、ご回答をいただきましたので、それについてコメントしたいというのが1点と、それとホームページについての質問があるんですが。

【田中会長】 それは後で。今は議会の件で報告ということ、それについてのご質問と、あと、その他、ございますでしょうか。

今後、西岡市長に替わりましたので、動く方向に行くことは何となくわかるんですけれ

ども、まだその先の絵が見えないということだと思いますが、何らかの形で図書館、あるいは公民館、市庁舎ということが見えてくるということになりますので、それを良く見ながら、遅れないように、十分に図書館の機能、あるいはその施設を盛り込んでいけるような計画ができるかなと思っています。

では、議会の報告についてはこれで終了させていただきます。

続きまして、その他、事務局から何かありましたら、どうぞ。

【西村庶務係長】 私から3点程ございます。まず第1点目が先程坂野委員からありましたが、資料のご説明です。第4回の協議会で坂野委員から要望がございました件について、ご提出させていただいています。

平成27年度第5回小金井市図書館協議会資料をご覧ください。1番、2番、3番と順に表にしてございます。1点目が年齢別の利用者数、26年度1年間の利用者数の推移、集計でございます。

この利用者数は閲覧者等は含みません。資料貸出者のみの利用者数の年齢別の内訳になってございます。

続きまして2番、レファレンス件数の推移でございます。レファレンス件数の推移については、かなり減っているような形になってございます。これは従前レファレンス件数のとり方、これを25年度に集計方法を見直しまして、全館簡易な資料案内や所蔵調査等はレファレンスとして件数としてとらないで、ほかの調査が困難であったものをレファレンスとして集計した結果、このような数字の推移になっているということでございます。

最後に3番、夜間開館の貸し出し冊数等の減少要因についてです。これは坂野委員から細かい分析ということのご要望でしたが、細かい分析等は実施しておりませんので、わかる要因としてこの2点ということでございます。

夜間開館の件数については前回皆さんにお配りした「小金井市の図書館」の32ページの件数を参考にさせていただければと思います。

資料については以上でございます。続いて説明し、最後にご質問でよろしいですか。

【田中会長】 はい。

【西村庶務係長】 続きまして、配付資料(3)です。今週28日木曜日に、皆さんにご出席いただく三者合同会議の次第(案)を配付しております。会場はこちらの集会室で午前10時からということになっております。

次第のとおり、生涯学習部長から生涯学習部の概要をご説明させていただき、それぞれ

の審議会から三者の概要についてということでお話をさせていただきたいと思います。

三者の概要については各審議会の会長から、図書館協議会につきましては田中会長からご説明いただきまして、その後、皆さん初めて顔を合わせるとい方もいらっしゃると思いますので、簡単な自己紹介をお一人様一、二分程度で予定してございます。当日は、ご用意をよろしくお願いします。

その後に三者合同の取り組みについてということで、最後の4番の意見交換ではこの三者合同会議で今度、来年度は三者懇談会が5月に予定されているんですが、年に2回程三者で色々お話をする会議になりますので、何か意見交換があればご用意いただければと思います。

三者合同会議については、以上です。

最後に3点目でございます。本日の会議の次第にもございますが、前回初めて皆さんは第14期でいらしたんですが、本館の図書館の施設をご覧いただいてなかったもので、主に閉架、特に今期から新しく就任された方に見ていただければ、先程館長から出ましたけど、図書館計画とか来年度に向けた、これからの図書館の関係を話す上で参考になるかどうかですけど、見ていただければなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。私からは以上でございます。

【田中会長】 今、3点ほど報告、説明等がありましたけれども、ご質問等ありましたらお願いします。

【坂野委員】 資料をいただきましてありがとうございます。図書館協議会の中で議論していくのに非常に役立つものだと思いますので、追加質問を少しと、コメントをしたいと思います。

1番について、この年齢別利用者数ですが、これは26年度の時点の年齢とってよろしいでしょうか。それとも登録した時点の年齢でしょうか。

【西村庶務係長】 26年度時点の年齢です。

【坂野委員】 そうすると、更新されているということ。

【西村庶務係長】 そうです。

【坂野委員】 わかりました。ありがとうございます。

この年代、数字を見ますと40から49歳というのが5万2,000人いるということで、これはいわゆる成人層が非常に高いということで、これは1つの特色になるんじゃないだろうかなと思いますので、別の統計で比較して見てみたいと思います。と言いますのは、

インターネットで調べてもあまり他の図書館の例が出てこないんですけども、前回も話に出ました山梨県立図書館はアンケートを公表しております。それを見ると20、30、40、50代が少ないですね。成人層が少ない。今、一番図書館としては成人教育に貢献したいことがあると思ったんですが、小金井の場合は40代中心に30代、50代も相当借りているということで、この年代に向けて引き続き図書館のより使いやすさ、利用者数を増やすということを目指せばいいのかなと思っております。

前回のお願ひした追加資料はこの3つに限りましたが、利用者数、貸出者数は別途の統計に出ていますので、それを小金井図書館の登録者数で割ってみますと一人当たり13.7冊です。貸出数割る登録者数です。登録者数は多少誤差があるかと思いますが、13.7冊と一応計算されます。他方で全国図書館協会でしたか、発表しているものを見ますと一人当たり年20冊なので、小金井でももう少し貸し出しを伸ばしてほしい。両者は年度が違ひまして、20冊の全国平均が2010年度、小金井の13.7冊はおととしですね。ですから、全国平均はもっと伸びていると思いますので、小金井で少し増やしたいということです。それでこの内訳を知りたかったんですけども、増やすべきところは若い方、それから高齢者の方々だと分かった次第です。

レファレンス件数のこの減り方は今ご説明ありました。確かに調査等の除外でやや少ないのかと思いますが、レファレンス件数を聞きました理由は、小金井市図書館には上石館長を含めまして27人の司書がいらっしゃいます。つまり年間175件、つまり1日平均すると0.6件、または27人で割ると1人年間4件ということで、随分少ない。せっかく司書という非常に能力のある方々がおられるのに少ないなということを感じたので、もっと他の実績数字があるんじゃないかなと思いました。

ご回答をいただき、もっと多くの案内や調査をやっていらっしゃるということですが、山梨県立図書館では統計が出されておりますので比較しますと、ここは飛び抜けて多く、26年度の調査相談件数、合計で4万4,150件なんですね。これは少々多過ぎるような気がしますけれども、やはり司書の方をもう少しうまく、大いに活用させていただいて、皆さんにこういう本があるというふうな紹介をしていくと、貸出増加に寄与できるんじゃないかなと思っております。

もちろんご存じのとおり、図書館ホームページ、それから図書館に行けば本館もそうですけれども、推薦図書という資料紹介があります。かといって、それだけでこの175件が1万7,000件になると思いませんので、司書の方々のそういう能力をもっと活用して

いくことを考えるのがいいのかなと思います。活用する方法例は簡単でして、前回ここで申し上げましたように小金井市のウェブを見ると「図書館にお越しく下さい」となっていますが、むしろ図書館の方から出ていくという発想です。色々な掲示板等がありますのでそれを利用すればいい訳です。例えば昨日で言えば10年ぶりに日本出身の相撲優勝者が出た。では相撲関係はこんな本がありますとか、あるいはラグビーが日本で随分話題になったという時におそらくラグビーの点数の入り方を知っている方はほとんどいらっしゃらないという時に、こんな本がありますとかどンドン紹介していく。その時に司書の方々の力を借りて情報を出し、そういうことで図書を読んでいただく機会を作る。こういうレファレンスの力を出していく余力がまだあるということです。

3番目の夜間開館利用。これは前回申しましたように利用実績が5年間減り続けて、3割も減ったというのはやはり理由があるんだろうなと思います。これについては、一般的に小金井市教育委員会も気づかれているようで、一般論で施設全般としての話ですが、前回配布いただいた資料、第3次小金井市生涯学習推進計画の19ページ、ページ数がずれている関係で原文は18ページですが、読み上げますと、これは「人と場所の確保」というタイトルの中で、「現在、さまざまな活動に参加している市民には、高齢化と固定化が見られることもあり、今後もこの傾向が続くと参加者数の先細りが予想される」ということです。これでお分かりだと思いますが、何か制度を作って非常にいいものであっても、もっと新しい制度のニーズに合うようにしなきゃいけないなということはこの減り方を見て感じました。1つ例を出しておきます。武蔵野プレイスが武蔵境にあります。駅から歩いて1分程度の所にあります。図書館と生涯活動と青少年活動と、それと市民活動を支援する4つの機能を持っているんですが、その1階、駅側から入って10メートル程行くとインフォメーションの横に「利用者の声」というのが貼ってあります。これがおもしろくてよく見っていますが、去年11月に非常に賛同を覚えるようなコメントがありました。書いてあったのは、文の内容から見てサラリーマンの方で「図書館をいつも利用しています。朝、もっと早く利用できませんか。」ということです。武蔵野プレイスは朝9時半から夜の10時までやっていますので、この方は夜の10時までに利用できないんですね。これは私も賛成します。二十数年間武蔵小金井駅から都心に通いましたけれども、平均的に帰ってくるのが夜の10時過ぎの電車です。ですが早朝であれば多少時間があるということです。回答は当然残念ながら「コストの関係で開くことができません」という内容でした。「人員が要る、電気は要る、冷暖房がかかる」これはそのとおりだと思います。ただ、図

書館は図書館という建物じゃない、サービスです。OPACで予約注文できますから、それを早朝に受け取ればいいんですね。多分このコメントした人もそういうことを言っているんだろうと私は感じた次第です。大抵のサラリーマンは小金井はまさに寝るだけのところというのに近いかと思えますけど、朝は眼が覚めています。その状況下で何かいいサービス方法はないかという単純で、早朝に駅で受け渡ししていただければいい訳です。貸出システムは要りません。紙リストに図書館カードの番号と貸し出す本を書いて持っていだけでよい。そういうことで、新しいニーズに合ったサービス提供方法をどんどん作って行く訳です。そこには机だけでもいいですし、あるいは東小金井駅と武蔵小金井駅には案内カウンターがありますので、朝6時半から8時半ぐらいの間にそこを使う、またそこではついでにこんな本もありますと紹介も行っていけばいい。そういうことで朝の時間を狙って利用を増やす。ということ、夜間開館利用の実績数字が減っているところを見ながら、また武蔵野プレイスの「声」、意見を見ながら思いました。

多分すぐ予算はどうするかと思われるかもしれませんが、そういう特別なサービス提供ですから、月間200円でも300円でも徴収するにすれば良いかと思えます。利用が300人超にもなれば6万円、9万円になります。サラリーマンでしたら、月に200円や300円惜しむことは絶対ありませんし、逆にそうやって200円や300円払っていただくならば、一層多く利用してくれて図書館利用数が増えると、そんなふうには思っています。私の経験からいいますと、土・日にはよく利用しましたが雨・雪が降ったら動けなくなってしまいます。先日のように結構降ったら動けなくなってしまったということがありまして、行きかねたことが多かったんです。

レファレンスにしても、夜間開館にしてもそういう新しいサービス方法のヒントを数字が与えてくれたかなと思って、詳しいこの数字の説明をお願いしたということです。

今いただいた資料、どうもありがとうございます。良くわかりました。

ついでに先程言いましたが、小金井市のホームページが改訂されたらしいですね。ちょっと前の協議会資料を見ようと思ったら見られませんでした。多分改訂途中だと思いますが、図書館協議会は見られましたが、三者合同会議のものが見られなかったんです。今週、開催されるので見てみようと思っていたのですが、タイトルまでは検索すれば出てきますが、そこからPDFが見られないんです。それと、以前に教育委員会のページにあった「お越しください図書館」という表現が今見る限りでは消えていたように思います。

また、ウェブ等を利用して図書館を利用してもらうという観点から、色々な工夫をする

べきかと思います。おそらくウェブを一番見るのはサラリーマンじゃないかと思うんです。学生かもしれません。要は日中パソコンに自然にアクセスしている人ということで、勤めている時に図書館を利用できます。OPACがあると会社でわからないことがあればすぐ調べて予約できる訳です。蔵書があって借りられるのであればどんどん利用するということになると思います。さらにその時にホームページを見てもらう。こんな図書もありますよと。そういうふうにしていけば、図書館の利用者は増えて、ホームページから色々な情報も伝えられるかなということです。

長々とすみませんでした。協議会の中で色々な議論を今後進めていく上で、こういう統計が有用でして、ほかにもたくさん質問はあるんですけども、いただいた資料に関係してご紹介いたしました。以上です。

【田中会長】 ありがとうございます。どうぞ。

【西村庶務係長】 坂野委員から、特にご質問等ではないですが、三者合同会議の会議録について、三者順番、持ち回りでやっけていまして、昨年と言うと公民館運営審議会の会議録の中にございます。一昨年ですと、生涯学習課の社会教育委員の会議の会議録に三者合同会議の資料が載っています。

今年は図書館が幹事ですので、今年は図書館協議会の会議録に掲載する予定です。

【中里委員】 今の坂野さんのご意見、反対のことになってしまって申し訳ないんですが、単純な質問ですが、年齢別利用者数、貸出数ですけども、これは全国平均が20冊、小金井は13冊ですか、これは平均的なものがよろしいのかもしれないんですが、何が何でもそれに近づけなければならないという図書館としての使命といいますか、そういうものもあるんでしょうか。

私の考えとしましては、そもそも貸出数が小金井市は何冊でも、いつでも、だれでもになっていますね。それすら1冊の価値がすごく落ちてしまうようで、本というのは本当に読みたいものをじっくり読んで、冊数で競うものではないのではないかと考えているものですから、こういう平均とかという言葉聞きますとちょっと残念な気がして、1冊であってもじっくり読み込むとか、今の子供たちが例えばあまり多くの図書に囲まれてしまうということも、果たしてそれが読書の推進につながるのかと言えば、すごく少ない本であっても、むさぼり読むような形というのも一面あるかと思いますが、あまり平均、平均と言われますと、そういうものなのかと疑問に思ってしまう。皆さんいかがでしょう。

【藤森委員】 今、中里さんがおっしゃったことはすごく大切なことだなと。それとも

う一つお聞きしたいのですが、このレファレンスの件数の推移というのですけれども、レファレンスという言葉をごどのように範疇というか、どういうことをレファレンスと言うかということをはっきりしないと、ちょっと本のことを聞いただけでもレファレンスと言うか、とても大切なテーマを持っている人がそのテーマに沿ったものを、司書の方に相談して調べるといふ深いところまで対応するといふレファレンスもありますし、件数として数えるときに、どれがレファレンスなのか、そういうことが聞きたいです。

【菊池奉仕係長】 以前おっしゃられたように、確かにちょっとした簡単な、こういうことを調べたいんですけれども、どの本にありますかと聞かれて、棚に行って、ここにありました、というものもレファレンスとしてカウントしていたことがあります。

そういった事例もあり、過去に関しては件数がかなり多いです。内部でも各館によって、本館は参考資料室を持っていますので、参考資料室で受けたものをレファレンスという認識があったんですが、分室はカウンターが1つですので、簡易なものであっても、少々難しいものであってもレファレンスという概念があったんですけれども、それでは統計上もやはり各館と統一性がとれていないということもありましたので、ここは少しレファレンス、調査、時間をかけて調べて、場合によっては小金井だけでは足りなくて、都立なり国会なりまで調べたものをレファレンスとして扱おうということで、先程庶務係長の説明にもありましたように、数はかなり絞られてきたということは確かにあります。

【藤森委員】 それで件数が減っているんだったら、全然問題はないと捉えてよろしいわけですね。

【菊池奉仕係長】 はい。

【藤森委員】 わかりました。

【菊池奉仕係長】 本館だけで言いますと、レファレンス室で受けている件数としては、それほど差異はないです。

【藤森委員】 わかりました。ありがとうございます。

【田中会長】 よろしいですか。

【坂野委員】 私の説明が不十分でございまして、レファレンスについては山梨県立図書館の場合、4万4,000件というのは、ウェブでの調査申し込みというのがあります。それが多い理由だと思います。山梨県に関する質問がたくさん来るといふことだと思います。ただ、レファレンスの件数そのものよりも、私が言いましたのは仮に4,000件だとしても、27人もいらっしゃる司書の方々の能力をやはりぜひ使っていただければなとい

う趣旨です。

目標値の冊数については、小金井の第4次構想のものの確定はまだこれからでしょうか。その中の「施策41」で図書館における住民1人当たりの貸出冊数という目標、これは図書館で立てられていらっしゃるんでしょうけど、現状値平成26年は8.1冊で、目標値は8.6冊と立てていらっしゃるって、増やしたいとされている、当然増やすべきだということですね。これを1つの目安として、これは住民1人当たりですから、これを登録者数1人当たり引き直すと13.7冊を多分15冊にするということであるのしょうけれど、その目標値が緩やかに見えたものですから、全国平均と比べどれぐらいかという目途として使った訳です。

先程言いましたように目標数字そのものにはこだわりませんが、それを達成していく中で、対象者をどこに向けたらいいんだろうかという考えることが、私の意見として、関心を寄せたいところなのです。

【内田委員】 今のお話を伺って、貸出数を伸ばしたいということ、中里さんがおっしゃったように、じっくり読まれる方もというところで、利用者数を注目したほうがいいのか。お1人当たりどうい本が必要でとかと違いますので、冊数というよりも、目標とか、今後目指していくにも利用者数というところの数字で捉えていったほうがいいのかとお話を聞いていて思いました。

資料でいただいた年齢別利用者数ですが、先程坂野さんから成人の利用を中心に活用があって、こちらが評価できるし、その対象をどこに今後持っていくかというものが重要だというお話もありまして、もちろんそこもそうだなと思うんですが、私が小・中学生の保護者として、若年層の7歳から9歳、10歳、12歳、そして、13、15、この20歳ぐらいまで、利用者数が少ないことが非常に気になりました。

一応PTAで把握しているのが小学生の世帯数なんですが、大体5,500世帯ぐらい、多分兄弟数もあるので、児童の数にすると多分1万ぐらいかと思います。中学生は2,500ぐらい世帯数がありますので、兄弟と考えても3,000強ぐらいはいるのとは思います。それに対して利用者数ですと、これは延べ人数ですね、全体の登録数ではなくて。そういうことでよろしいんでしょうか。

そうすると、本当にどのぐらいの子供が使っているのかなど。ただ各学校にも図書室が設置されておりますし、学校からも利用を促していますから、必ずしも図書館にということではないでしょうけれども、長期休暇等もありますし、そういったことを考えるとあま

り利用は多くないのかなと、身の回りのお子さんとか、我が子の様子を見ていても思いました。

その中で先日山本教育長が学習会でおっしゃっていたのが、理想的な図書館というのは子育ての場であり、本を読み、本を調べる場、そして、自学自習の場であるということ、子供には本をもちろん借りるという目的もありますけれども、学習の場として図書館を使ってもらおう。

今、北センターですとか、一部学習室等設けていただいていますけど、本館には学習室の十分なスペースもあまりないですし、前回は申し上げましたけど近隣だと武蔵野プレイスだとか非常に学習室も充実しているので、小金井からもかなりのお子さんがそちらに実際通っていらっしゃるんですね。今後小金井市も学生に対してそういう場の提供をしていただくことが求められるのではないかと思います。

あと、図書館で託児という記事を朝日新聞朝刊でご覧になった方もいるかもしれませんが、幼児を連れてお母さん方が子供に絵本を借りたいとかと児童室にいらっしゃるのはいいんですけども、ご自分が本を読みたい、何か調べたいという時に、小さい子を連れてですと、一般の閲覧室、図書スペースに行くのは皆様のご迷惑になるのではばかられる。そういったことで遠慮されて、利用者数が伸び悩んでいるところもあるのではないかと思います。この取り組みで、児童室、保育室みたいなものを設けて、1時間に区切りお子さんをお預かりして、お母様に自由に閲覧に行ってくださいというようなサービスをしているのを読みまして、こういったのも今後、一つの方法ではないかなということをお伝えしたいと思います。

以上です。

【坂野委員】 実は私もそんなふうに思っているところもあります。ただ予算が少ない当市ですので、非常につらいものがありまして、武蔵野プレイスのようなものは中々作りにくいだろうという中で、図書館ですから蔵書の充実を優先するのか、それとも施設の充実なのか、ここは十分話し合っていきたい、特に新しい図書館を作るのであればと思います。

山梨県立図書館を何度も出して大変恐縮ですが、統計が非常に詳しいのが公表されていますので、それから計算すると1日2,844人が利用されている一方、本を借りている人は色々な数値から計算すると大体800人。差し引き2,000の方が違うことで来られている。あそこは多目的ホールとかありますので、そういう図書借り出し以外の利用なの

かなと思います。図書館をどのように作るのか、多目的ホール等本閲覧以外の目的用に作るのか、さらには、お子さんを連れてこられてお子さんに本を読むとか、あるいは学生の勉強場所とか、そういうところも含めるのか。確かにそういう方法もいいと思いますけれども、明確にしながら議論していきたいなと思っております。

名前は出しませんが記憶にありますのは、東北のある図書館はエントランスホールでピアノ演奏ができます、図書館の広いエントランスホールでできますというのをうたっていましたけれども、これは見てびっくりしました。それだけの冷暖房等にかかる費用があれば本をたくさん買ったほうがいいだろうと思います。サービスの絞り方ですね。図書館という中でどういうサービスを重点とするかを考えていきたい、そういう話ができればいいなと思います。

今の内田さんのお話で、小学生の年代の人数はウェブで公表されていて、7歳から12歳だとすると5,300人ぐらいが小金井市にいます。この数字で今日いただいた配付資料から言いますと、その小学生が1年に4.5回ぐらい借りに来てくれている。もっと言えば4.5回しか借りに来ていない。これをどうやって増やしていくんだろうか、学校とどのように協力していけばいいんだろうか、そういうふうなことを考えていきたいなと思っております。

【鴨下委員】 私も10代、20代の桁が一つ違って少ないのがとても気になっています。やはり図書館は利用者数だと思います。

私は図書館で何十冊も借りているんですけども、じっくり1冊を読むのに利用する場合と、調べるために利用する場合と、利用の仕方は色々ありますので、冊数よりも利用者数かなという感じがするんですけども、小学生の利用が少ない、ちょっとがっかり、そう思いました。

学校図書館を利用していると思えばいいですけど、それ程小金井の学校図書館は充実しているようには見えませんし、もう少しこの辺を図書館として出かけて行って、子供達を図書館に呼び寄せるような活動をするとか、そういう学校図書館と公立の図書館を両方とも充実して、図書館を活用する、子供を育てることによって図書館を活用する市民が育つと思うんです。ですから、そういう観点でこの辺を見直していくといいのではないかと思います。よろしく願いいたします。

【坂野委員】 鴨下さんの意見をお聞きして一言。私は子育てがもう二昔前になりますが、今市内小中学生の作品展を宮地楽器ホールでやっているんですが、1時間程見ていま

して驚きました。あれ程自由に立派なものを作るのかなというぐらい、小学生は原色を使った外向きで自分を主張するようなもの、中学生は逆に、緻密に内向きに自分を描いたものです。教師の方々のご指導はすごいなと思いました。その作品活動同様、教師・学校と協力しながら図書館の利用を進めていく必要性を感じました。図書についても同じように自由に自主的に利用してほしいと思います。

また、学校で扱えない図書というのを市で提供していくことも1つだなと思います。例えば電子図書ですね。それからインターネット上の図書、これは非常に難しいことがあります。が、学校でもできない、家庭でもできないというところを、市つまり公立のサービスが拾っていくんだろうなということで、将来的にどこかで議論しなきゃいけないだろうなということですね。

それから自主的にというのが作品展でもありましたけれども、実は自主的というのは子供に非常に難しく、大抵みんなのまねをする。まねをしなければ取り残されてしまう。本について言うと、まねして読もうと思ったら同じ本がない。学校の図書館に行って読もうと思っても、何十冊もある訳ではありませんので、それでみんなが一斉に読もうと思ったら読めない。自主的な読書活動という観点でどうやって図書館で助けていくか、自由に選ぼうと思うと、その本が多分学校にはもうない、みんなが借りていると思いますので。それを市立図書館として補い助けていくとか、そんな工夫も必要だろうなと、子供特に小学生や中学生について言えば、思いました。以上です。

【田中会長】 そのほか何かございますでしょうか。様々な意見、考え方、図書館のあり方、将来のあり方について色々コメントがございましたけれども、今後、図書館のハードが変わるとするとソフトも変わると思われます。そこで、どのような内容にしていくとか、どういうふうに持っていくかというご意見は皆さんから今後さらにいただくようなことになると。

利用者について、あるいは小学生、中学生と市の図書館、学校の図書館と市の図書館の関わりについて、今後さらに話をしていく必要があろうかと思います。ただ、私もそのような話をしたときに、1つだけ言われたのは、やはり縦に線が入ってしまって、要するに予算的なことを含めて学校教育の中の話であった。こちらは市民とか社会教育の話であって、そこに相入れするのに、やはり学校側がちょっと難色を示すといえますか、そのようなことがあって、そういう垣根も取り払っていかないといけないかな。要するに学校にある図書を利用したりすることは可能なのかという話を、学校にもそういう本が色々あ

るんだから、普通の人が行って借りてはどうかと言うから、これはちょっと難しいなど。そういうこともありますけれども、ちょうどいいきっかけですので、そういう話もしていただけたらいいなと思います。

【鴨下委員】 学校の図書を活用するという話で、三鷹市でそういう試みをしているんですけど、そのためには土曜日に出勤する司書を置いて、図書館から普通の教室に入れないように、来た方が教室を色々徘徊しても困るので、ドア、壁も新設してとか、出口を作るとか、予算上、事務的なこと等たくさんありました。そのわりには利用者が。

やはり公立の図書館へ行ったほうが書架の場所も良くわかるし、確認しやすいという。もうやって10年ぐらいたっていますけど、なかなか難しい面はあります。

【坂野委員】 相当の負担が学校にかかってしまうのですか。

【鴨下委員】 はい。

【坂野委員】 逆は、図書館の本を学校に貸し出すということはやっていますね。利用状況はどんなものですか。あれは非常にいいアイデアだと思っているんで。

【上石館長】 「小金井市の図書館」32ページに団体貸し出しという項目がございます。こちらがそれに当たると思います。

学校、文庫、児童館、福祉施設、事業所等に必要とする資料を貸し出していますという事でこの内訳ですけど、ほとんどが学校、学校図書館に貸し出しております。

全市内小学校で一小は図書館が近いので、一小だけは行ってなくて、毎学期ごとの貸し出しですけども、PTAのお母さん達を中心になって、本を選ぶのもお母さん達、図書館本館でしたら配本もしております。そういったサービス、多分団体数、今の図書館の事務量としてはマックスです。学級文庫選書日を調整してもらっていますが、その申し込み開始日の初日のすごいことと言ったら、PTAの方々も大変ですけども、こちらも受けて調整するのが手いっぱい状態で、多分マックスのところですよ。

あと、先程テーマ図書というような坂野委員からラグビーと相撲とか、そういった時期に合わせたことはどんどんやるべきだというお話でしたけど、そちらもテーマ図書ということで、図書館職員が集めて展示しております。本館で言いますと1階の入り口の柱のところと2階の児童室もやっております。各分室でもその時期に合わせたもの等のテーマ図書をやっております。

あと、著名な作家の方が亡くなった時は、追悼ということで、色々な本を書架に並べてテーマを決めてやっております。そういったことも少しずつですが図書館職員がやってお

ります。テーマ図書について39ページにありますのでご覧になってください。

【田中会長】 よろしいでしょうか。では、坂野委員。

【坂野委員】 先程田中会長からお話がありましたように縦割りで難しいというんですけど、それに懲りずに、上石館長から話がありましたように図書館側からは積極的に学校教育に協力していくということで続けるのは非常にいいことだと思います。予算上は非常に厳しいものがありますが、その中で続けてやっていくということだと思います。

それから、小金井の図書館には大学の図書館にもあまりないような本も閉架書架にありまして、それをもっと積極的に、小・中学校より少し上の話なんですけど、大学に貸し出しでもいいような本がありますので、もっと広く協力できるんだらうなと思っております。趣味で仏教の歴史をやっていて実際気付いたのは、普通の大学になく借りられないような学術本が図書館本館の閉架にあってびっくりした例があります。そういう本も蔵書の点検分析をすることによって、図書館として他に協力を提供できることがたくさんあるのではと思っています。以上です。

【船崎委員】 よろしいですか。

【田中会長】 はい。

【船崎委員】 今日、色々皆さんに聞かせていただいて、もし新しい市長が図書館について新館を建てるなら、建ててほしい訳ですけど、先程坂野委員、内田委員がおっしゃっていたように、どういう図書館にしていくかというのが非常に重要だと私は思っています。

結構難しくて、私も長年図書館やりましたけど、中々予算のこととか、私は元々古い考えのほうで、資料が一番大切、図書館では煎じ詰めると資料だということで、そういう考え方をしていたけど、やっぱり図書館はもっと色々な働きがあっていいんじゃないかということが一方であった訳です。

私が図書館に入って一番感じたのは、勉強したい人がいっぱい来る訳ですね。ところが、当時二十数年前、図書館の世界に入ったんですけども、図書館界の意見というのは、図書館の本を使わないでただ学習に来るのは、図書館の発達を妨げるということで、場所をとって、しかも実際に読みたい人が来てもなかなか座るところもないということで、なるべくそういうのを減らそうと。図書館は借りるところだ、みたいなのが非常に優勢だった時期があるんです。

私はちょっとおかしいと思って、この時の市長なんかには、もっと学習室みたいなものを図書館に作ったら、スタディセンターみたいな要素があっていいんじゃないかとか、色々

言ったんだけど、中々うまくいなくて、それよりはまず資料だとか、色々あったんですね。

それから今度は企画で、図書館からではなくてプレイスの意見が出まして、あれは逆に、プレイスとその名のとおり、場所が重要だということで、色々な人が来て、それをやったり、お勉強したりやるということで、特に若い人と行って随分、私はもう遠ざかっていましたけど、色々なところを見に行ったり、特に子供が、若い人が来るというのは案外、図書館は少ないんですね。

先程坂野委員がおっしゃったみたいに、武蔵野、統計を見ましたら30代、40代、50代、60代ぐらい、この辺は男性が多いだろうけど、だんだん子供が来なくなっていますね。小さい時は来ているんだけど、そうすると色々な塾へ行ったり、何とかとあるのかなと思って、そうは言っても増やさなきゃいけないとやったんですけど、結局は30代、40代、50代、60代、その辺の人が多いうのは変わらない訳です。とにかく図書館を本当に場としてどうするかというようなこと、それから色々なご意見として、細かいサービスをやるか、図書館の方向性みたいなのは、時間がある時に議論をしておいたほうがいいのかなという気がしますので申し上げました。結構難しいんですね。特に予算のこともありますし、本当に難しいんですけど、やはり議論しておいたほうがいいと思います。以上です。

【田中会長】 何かまとめた意見みたいな感じですね。そのほか、報告等ありますでしょうか。

用意した議題は以上になりますが、今週木曜日にまた三者懇談会がありますので、その時には自己紹介していただきます。よろしくお願いします。

以上で協議会は終了させていただきたいと思います。この後、図書館見学会。狭いところですが。

【上石館長】 普段入れない閉架書庫と、築40年の建物、そうそう見られないと思いますので、見学しながら少しお話を。閉架書庫の電動書庫とか、もう本当老朽している部分とか、もし今後の図書館でこの閉架書庫をどうするか、建物の説明、明るさ等も色々あるように思いますけれど、そういう観点から見ていただければと思います。

【藤森委員】 今まで話していたことと全く違うことで、図書館協議会の開かれる回数が少ないので、時期的に早過ぎるかもしれないですけど、科学の祭典のことで、夏のことを今から言うのもおかしいことなんですけど、去年とおととしと2度参加させていただい

た時に、手伝いをさせていただきましたけれども、これは三者で参加ということが原則と石田委員から伺ったと思うんです。原則的に三者で参加するので、図書館協議会は参加しますかと一応形的には聞かれるけれども、原則参加みたいな感じだったと思うんですね。

ただ、実際皆さんすごくお忙しい方ばかりで、参加すると決めても、そのことに時間を費やせる人と時間がとても少なくて、おとしの場合は、則竹委員とか吉田委員がお力を尽くしていただいて、会長と中里委員も、当日もとても大変でしたけれども、良かったと思えるお仕事ができたかなと思ったんです。

去年は参加すると決めてから1回も顔を合わせることがなく当日を迎えるということになって、おとし出したものの残りをとりあえず並べてというような、私の個人的な考えでは、ちょっとこんなのではどうなんだろう、というようなものだったので。

図書館協議会として絶対に参加しなくてはならないと言うんだったら、もう少しみんなが協力できるような形をとりたいと思いますし、そうでないとすごく少人数の人に負担がかかると思うんです。

できたらそのことを今のうちに、どういうふうな立場をとるべきなのかということをお聞きしたいんですけれど。早過ぎると思うんですが、日にち、会議がないので。

【田中会長】 初めの方はまだちょっと何の話かなと。

【藤森委員】 すみません。

【中里委員】 今年はいつというのはもうお決まりなんですか。

【西村庶務係長】 まだですね。

【藤森委員】 石田委員が一番良くわかっていらっしゃるので、これはたしか5月に申し込み締め切りだったと思うんです。ですからその前に図書館協議会としてはどの程度の力を出せるかということを決めないと、去年、中里委員は1日中立ちっ放しで、とても大変な思いをなさって。

【内田委員】 私もP連とか、小・中学校から科学の祭典に関わり、何度も行かせていただいているんですが、図書館協議会でブースを出されているというのは、ごめんなさい、今まで知りませんでした。

【藤森委員】 そうだと思います。

【内田委員】 知りませんでしたし、今までどのようなものをされて、何の目的でされているのか少しお伺いしたいと思います。

【田中会長】 2年か3年程前から始めたんです。それは三者合同会議で、みんなで科

学の祭典やりませんかという、逆に向こう、主催者側からお誘いがありました。当時はブースも少なく、多分展示が少なかったと思います。

それで、極端な話、ブース数を増やすために何かやってくれませんかみたいな感じで、何でも科学に関係するじゃないですかみたいな、極端な話ですね。では何かやろうかという話で始まりました。

社会教育委員は、前の生涯学習計画なんかを張ったりして、私達はこういうことをやっています、みたいな。公民館は、子供相手に色々なイベントとかやっていますから、話としては、野生というか、そういう、野川でこういうことをやっています、みたいなこと。図書館は何をするんだと言ったときに、なかったの、じゃ、みんなが2つずつ推薦した本を並べて、子供向けのそういうことをやろうじゃないかということで一昨年と昨年やったと。

ですから、直接科学云々というよりは、それに関係する、あるいは子供に見て読んでもらいたい本を、委員から推薦していただいた本を図書館で選出してというか、持っていつていただいて並べてということをやっておりました。

図書館協議会として子供、科学の祭典に関して何かをするというよりも、直接的に今のところは、こういうものをという提示はしてないので、どうしたらいいでしょう。何か積極的に参加してきていた訳ではないと言ったら変ですけど、そういう状況です。

【内田委員】 難しいのは、1日中ご苦労さまです、お立ちになっていて、実際のブースのご来場者数とか、来場された方の様子とかはどうでしょう。よそと比べてというのはちょっとわかりにくいかもしれませんが。

【中里委員】 会社で言えば、費用対効果云々を言ってしまうと非常に厳しいところがあるかと思いますが。でも、図書館協議会と公民館の協議会は同じ1つのお部屋になるものですから、公民館側は子供相手にちょっとした工作をやったりしますので、そちらの人の流れがちょうど立ち寄っていかれる、しかも強引に勧誘してという形です。中々あその場で、落ちつかない場で本を手にとってという方は少ないんです。小さなお子様が本を見ながらお母様とちょっと腰かけていらっしゃるという感じで、あまり積極的にうちを目的として来てくださるというのは実際のところはないと思うんですね。

でも、準備することは本をこちらで用意していただいたものを車で運んで配架して、ちょっとしたものを張りつけて、中々車がないとだめなので、車のある会長に依頼して、そのほかにも色々聞かなければならない講演を聞かないとその張り紙がいただけないとか、

時間的には相当拘束されるんです。

私もずっと小金井ばかりじゃなくて、半分ぐらい別のところで暮らしております関係で、なかなか時間をとるのが難しい。私ばかりではなくて、皆さんもそうなものですから、準備はここで簡単にできるものはないんです。

【内田委員】 このメンバーだけだと厳しいですね。企画を例えば中心にどなたか実際にお手伝いいただける方とか。

【中里委員】 それをお手伝いいただけますかと聞くだけでも、そのメール連絡自体が困難です。

【内田委員】 このメンバーだけだと厳しいですね。企画を例えば中心にどなたか実際にお手伝いいただける方とか。

【中里委員】 それをお手伝いいただけますかと聞くだけでも、どうしようもなく、メールで、そのメールが留守ですといただいても全然頼りなくて。

【内田委員】 本来はまた別の企画委員みたいなのを立ち上げて。

【中里委員】 それをやる人が1人でもいらっしゃれば別ですけど。

【内田委員】 場所なので、その意義とか、効果とかというのもすごく重要なところではあると思いますけれども。

【中里委員】 総論賛成、各論反対みたいな感じになってしまって、図書館協議会としては良いものをアピールしていきたいのは山々ですが、そういう場には実際にはなっていないですね。

そういう意味では、もっとじっくり読んでいただきたい、こういう本をとというのは、科学の祭典は年齢層も低いですし、そぐわない感じを私は感じております。2回いたしましたけど。

【船崎委員】 私もこれは果たして図書館協議会の仕事なのかというのが最初にあるんですけども、総論から言うともちろんいいことであるし、ぜひやって、でも、やるからには時間もかかるし、ちゃんとやらなきゃならないので、そうすると、私は1回しか行っていないんですけど、その気になってやらないと、それで引き受けないと、図書館協議会委員自体を。というぐらいの仕事だと思うんです。

何となく本を選んでやったけど、後味が悪いし、やっぱりもっと議論、それこそ計画して何とかと。片手間にやるんだったら、私はやらないほうがいいと思います。図書館は無理ですか、図書館の職員はお忙しいですか。

【上石館長】 ええ。科学の祭典に関しては実行委員会形式なもので、そこに事務局として生涯学習課がいます。去年あたりから、図書館が関わってほしいという委員もおられたんですけども、図書館が出るものではなくて、協議会の自主的な活動だということで、皆様も前からの流れでそうやっていただいたんだなと思っております。三者でまた話し合うというのも良いかと思えます。今日ここで決まるものでもないと思うんですけども、提案がありましたので、それぞれ考えてきていただいてということで。

【中里委員】 2回目の去年、今年はどうするという話が出たときに、やはり三者がそろって参加していることに意義があるので、図書館協議会が抜けるのはちょっとというような感じのお話の雰囲気だったものですから、そういうものなのかなと思って、3つそろわないと格好悪いというような意味に受け取りました。船崎委員のおっしゃったように、引き受けたからにはある程度図書館のことを皆さんにわかっていただくという、発表、発信する場としてとてもいいことだと思うので、もうちょっとちゃんとやりたいなという気持ちはありまして、去年の仕事はとても自分自身として満足できるものではなかったと、すごく後味が悪いといえますか。

ただ、だからといって、皆さんすごくお忙しい方ばかりなので、お時間とっていただきたいと言っても、現実問題として無理なんですね。それでどうしたらいいのかなということで、ちょっと時期的に早いですけれども、ご相談したいと思いました。

【内田委員】 すみません。次回の三者の時に伺ってもいいのかと思うんですが、ほかの2つの協議会はどのような運営を科学の祭典に向かってなさっているのか。

実際、各協議会何名いらっしゃるのか存じ上げませんが、その方々だけでやっているのか、多分、公民館とか、社会教育委員はそもそも母体がもっと大きく、活動も日々されていていらっしゃいますので、そのほかの方々も企画とか運営に携わってもしかしたらやっていたらいらっしゃるのか、となると全然母体とか取り組む規模が違うので、もし同じようにと求められた場合に、そこらご相談して、こちら例えば企画ですとか、そういったものには携わらせていただいても、実際の運営とか、主となってやっていただいたり、それから当日の人の配置だとか、そういったのは協力していただくなりして、そういう体制を求めていってもいいのではないかなと思います。

【田中会長】 今度の三者懇談会で少しそういう話をしたいと思いますが、科学の祭典は、図書館協議会のマターではないんです。名前は出ますけれども、主たる仕事ではなくて、先程言いましたけどみんなでやるからちょっと一緒にやろうよみたいのところから始

まっていっただんですが、どんどん科学系がいっぱい出て、はっきり言ったらどこでやっているかわからないとおっしゃいましたけど、そんな感じです。

メーンがサイエンスということになっていくと、それをサポートする本等ではありますけども、人の目は何かやったり、見たり、聞いたりというほうに行ってしまうので、ただ展示をしていても、200ブースぐらいあるんですか。100はありますね。

その中で子供たちが見て回るといっても、時間的にも無理がありますし、そういう意味では考えどきだと。

【内田委員】 今お話ししていた中で思いつきですけれども、例えばその祭典と共催、同じ時期で、かつ図書館で科学に関する児童書の特集コーナー等を作ってタイアップで、そちら科学の祭典と、PRとともに、図書館ではこういう本をそろえて、要するに科学を子供達に広くPR等を、そのような取り組みをしていますとか、そういう形のほうが本来の図書館として。

だから、どちらかというところ、協議会のお仕事よりも各図書館で司書がテーマ図書とか色々やって、季節によってやっていらっしゃるけれども、その一環として科学の祭典とタイアップして、この時期は科学本の特集コーナーを作っています。科学の祭典に興味ある方はぜひ各図書館にも行ってみてください、お子さんをお連れになってください、というような企画をされたらいかがでしょうか。こういう方法も考えています、なんて。すみません。思いつきです。

【田中会長】 次回、提案させていただきます。

では、以上で閉じたいと思います。ありがとうございました。

— 了 —